

平成 29 年アツマカムイノミ・イチャルパ開催挨拶

本日ここに祭祀の沢田様、北海道アイヌ協会理事長の加藤様他近隣の関係者の皆様にお集まりをいただき、厚真町におけるカムイノミ・イチャルパが開催できますことを、衷心よりお慶び申し上げます。

私は、厚真町長の宮坂でございます。平成 20 年に開催した本儀礼以来となり、皆様方にはご無沙汰しておりましたが、明日の厚幌ダムの湛水式を控えた本日の儀礼に参加することが叶い、誠に感慨深いものがあります。平成 20 年の会場は、このダムの母材山となったオチャラセナイ遺跡のチャシ跡でありました。その後、このダムの事業区域の数々の地点で埋蔵文化財の発掘調査が進められたことは、ご承知のとおりであります。その調査成果は、縄文時代からアイヌ文化期にわたる当該地域の隆盛を物語るものであり、学術的にも大変貴重なものとして評価をいただいています。その一部は、只今、文化庁主催の全国巡回展覧会にて展示されており、アイヌ民族の歴史と伝統文化を今に伝える大きな役割を果たしております。

さて、2020 年には愈々アイヌ民族共生象徴空間が白老町に開設され、北海道の先住民であるアイヌ民族の伝統文化が全国或いは世界に発信されていくこととなります。また、来年には、北海道の命名 150 年を記念して松浦武四郎の足跡とアイヌ民族文化を広く PR していく取り組みが全道で展開されると伺っています。これを契機に、本町での調査や研究成果をさらに深め、本町が北海道におけるアイヌ民族の歴史を紐解く一助となることを願ってやみません。

折角の機会ですので、私が温めている構想を少々ご披露させていただきたいと思います。厚幌ダムの建設事業の都合から、本儀礼の会場が転々としていましたが、厚幌ダム完成の翌年度には、このダムの展望施設整備の一環ではありますが本儀礼にふさわしい環境を整えてまいりたいと考えていますし、また、埋蔵文化財の保存・展示施設も町内に開設してまいりたいと考えています。その節には、是非、ご指導いただければ幸いです。

結びにさせていただきますが、季節は正に収穫の秋です。大自然の営みと恵みに、そして全ての先人の御霊に心から感謝いたしますとともに、アイヌ民族の伝統文化が次世代に正しく伝承されていくことをご祈念申し上げ、ご挨拶いたします。

平成 29 年 10 月 1 日

厚真町長 宮坂 尚市朗